

《チャイルドラインデータ資料》  
2021 チャイルドライン全国キャンペーン 報告  
～今こそ子どもたちにチャイルドラインを～

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

児童虐待防止推進月間に合わせ実施したチャイルドライン全国キャンペーン期間中に寄せられた子どもの声を、チャイルドラインデータベース等を基にまとめました。

【期間】 2021年11月1日～30日

【概要】 電話 毎日16時～21時開設（一部地域では、時間延長で実施）

オンラインチャット 16時～21時開設

11月1日～14日：毎日

11月15日～30日：木曜・金曜・第3土曜

【データ集計日】 2021年12月26日

【データの種類】 トラヒックデータ 電話：NTTコミュニケーションズ

チャット：AI.BiS から取得

データベース

電話・チャット＝「受け手」が感じた内容を子どもが特定できないようプライバシーに配慮し、データベースとして集積

【データの性質】 データの誤入力や重複、未入力データがある等、今後、修正が生じる可能性があるため、「速報値」であることを前提としている  
匿名性を大切にするという観点から、個人を特定できるようなデータは取得していないため、一人の子どもから複数回受信している場合もある

◎報道関係の皆様へ データ資料について取材、ご利用の際は、下記までご一報ください。

特定非営利活動法人チャイルドライン支援センター

〒162-0808 東京都新宿区天神町14 神楽坂藤井ビル5F

メール：info@childline.or.jp 電話：03-5946-8500

ウェブサイト：<https://childline.or.jp/>

アクセス総数 40,135 件 受信件数 15,871 件

※トラフィックデータより

### 【電話】

	発信数	着信数	着信率	総実施時間
11月	36,692 件	14,530 件	39.6%	3,360 時間
前月比	+324 件	+1,044 件	+2.5 ポイント	+450 時間

### 【オンラインチャット】

	訪問件数	書込件数	対応件数	対応率	総対応時間
11月	13,420 件	3,443 件	1,341 件	38.9%	748 時間
前月比	+2,190 件	+1,141 件	+701 件	+11.1 ポイント	+396 時間

電話・オンラインチャットともに、総実施(対応)時間が増え、着信(対応)率もあがりました。特に、オンラインチャットは、キャンペーンを機に実施団体が 18 団体から 27 団体に増えたこともあり、大きく上昇しています。

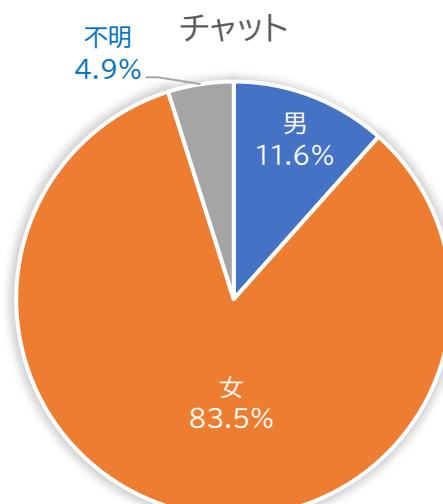
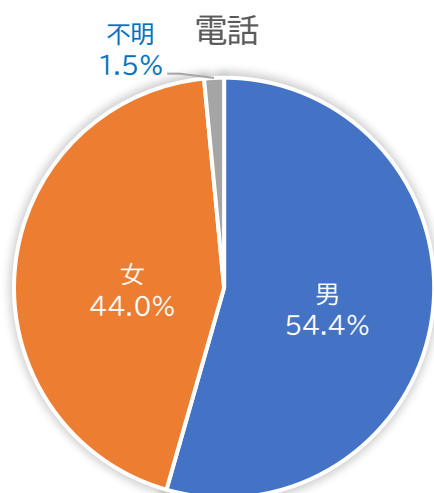
会話成立総数 4,520 件 電話:3,864 件 チャット:656 件

※受信した件数のうち、会話が成立したもの(データベースより)

### 【会話成立・性別】

	男	女	不明	合計
電話	2,103	1,702	59	3,864
チャット	76	548	32	656
合計	2,179	2,250	91	4,520

単位:件

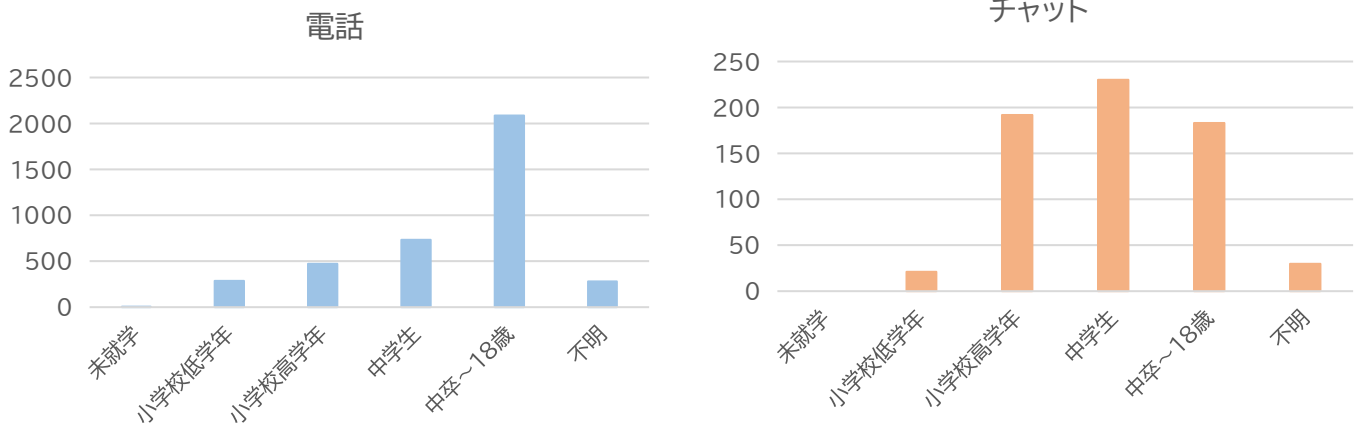


11月に限らず、電話は男子が、オンラインチャットは女子が多いという傾向があります。

## 【会話成立・年齢】

年齢	未就学	小/低学年	小/高学年	中学生	中卒 ～18歳	不明	合計
電話	4	286	471	731	2,089	283	3,864
チャット	0	21	192	230	183	30	656
合計	4	307	663	961	2,272	313	4,520

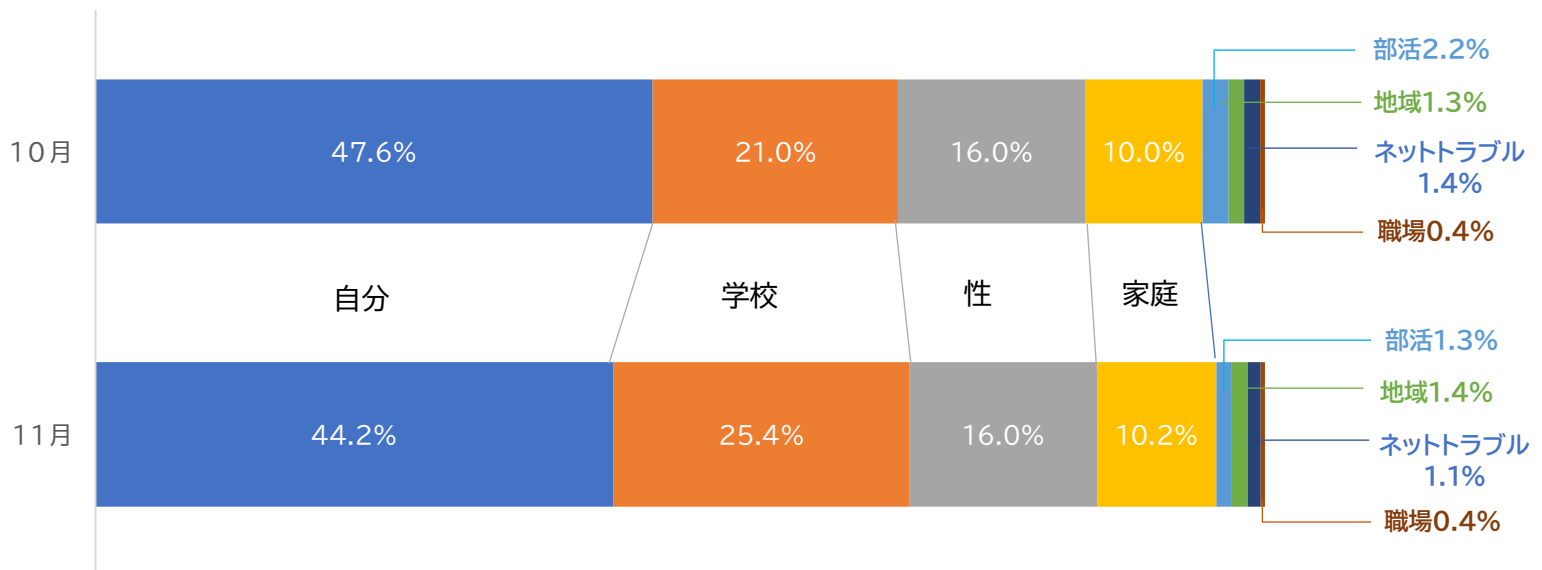
単位:件



コロナ禍でオンライン授業が取り入れられ、小学生にもタブレットが渡されたり、家庭のネット環境が整ったりしたためか、小学校高学年からのオンラインチャットが増えてきているようです。

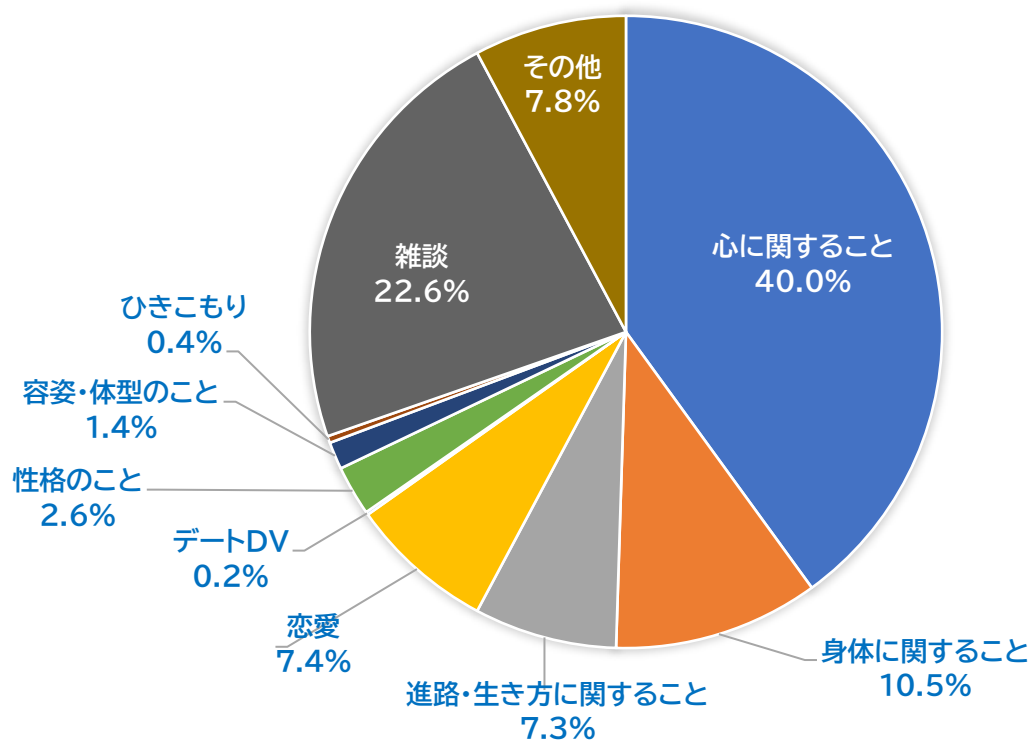
## 【主訴別割合(電話・オンラインチャット)前月比較】

n=10月 3,912/11月 4,520



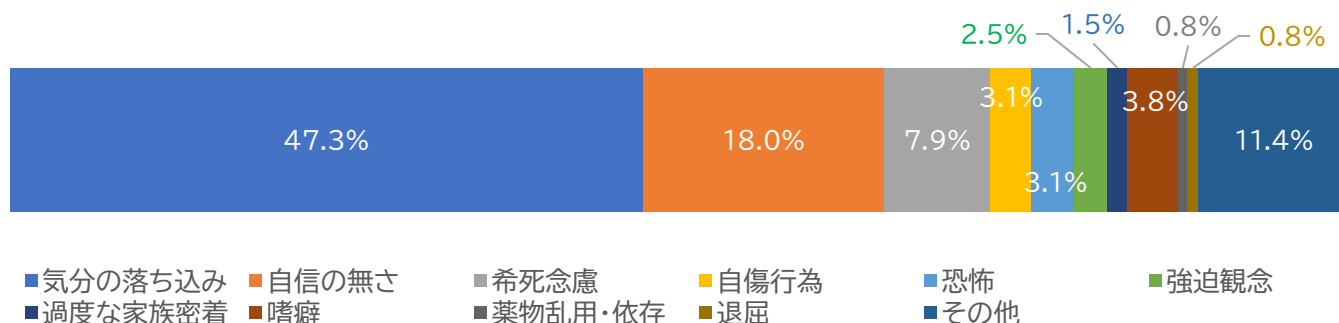
子どもの話の内容(主訴)は、10月に比べて「自分」が減り「学校」が増えています。11月は学校行事が多いため、学校にまつわる話題が多くなるものと思われます。

## 【主訴『自分』内訳】 n=2,000



11月に限らず、「自分」の内訳では、心に関することが一番多くなっています。次が雑談で、そこからは誰かとつながってほしいという思いを感じます。また、自分の気持ちを話すまでの導入(結果として話せなかった)もあるかもしれません。

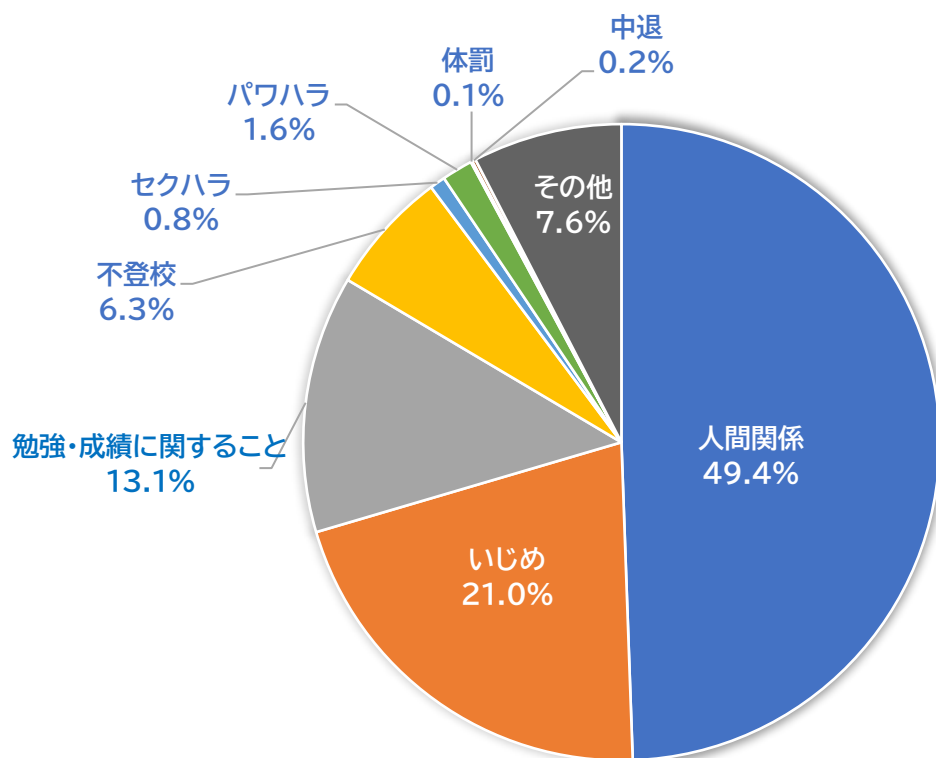
## 【主訴『自分・心に関すること』内訳】 n=800



約半数が「やる気がおきない」「毎日が楽しくない」などの「気分の落ち込み」となっています。また、自分に自信がなく、周りの人の目が気になる様子も伺えます。

※ここでの「希死念慮」は、それを持つに至った経緯・背景などがなく、その気持ちだけを語ったもので、後に掲載する「希死念慮内訳」には反映されていない場合もあります。

## 【主訴『学校』内訳】 n=1,147



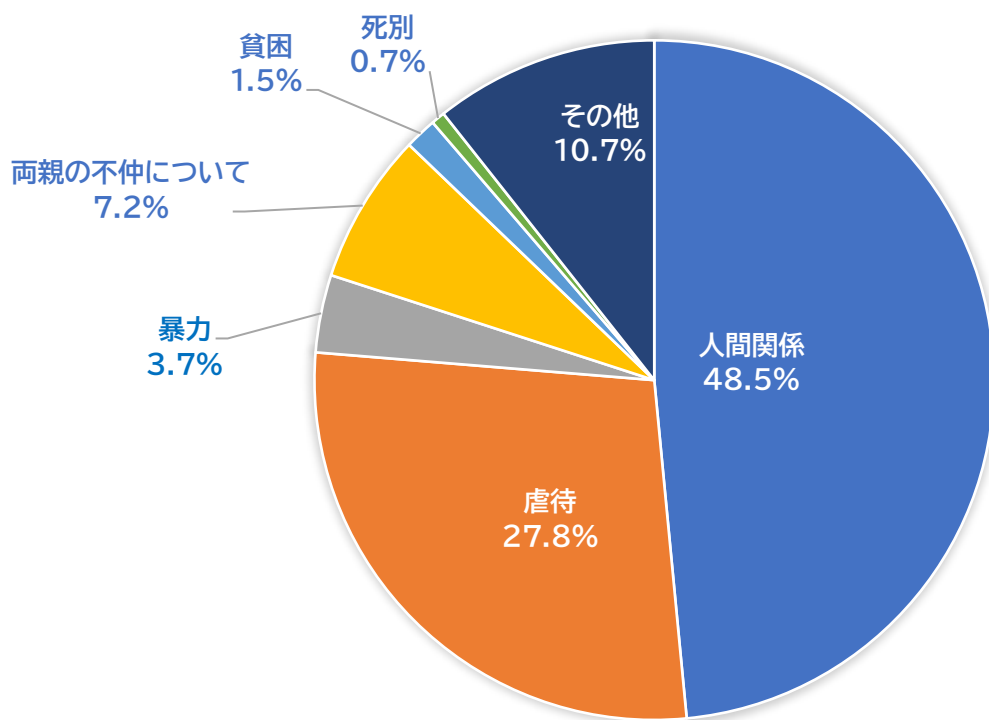
人間関係が約半数となっており、友人や教師との関係に悩んでいる様子が伺えます。友人との関係ではいじめまではいかないけれどそこにつながる可能性のある内容や、教師との関係では子どもではなく教師側に問題がある内容も多くあります。

## 【主訴『学校・いじめ』内訳】 n=241



圧倒的に、被害者からの内容になっていますが、わずかながらも加害者側からの話もあります。また、傍観者は自分の周りで思っているいじめに心を痛め、なんとかかしたいという気持ちを話してくれます。

## 【主訴『家庭』内訳】 n=460



家庭でも、人間関係が約半数を占めています。思春期や反抗期というだけでは説明のつかない、父親や母親という近い関係性の人との関係に悩んでいる子どもたち。そこからは、おとな側が抱える問題に振り回されている様子も伺えます。

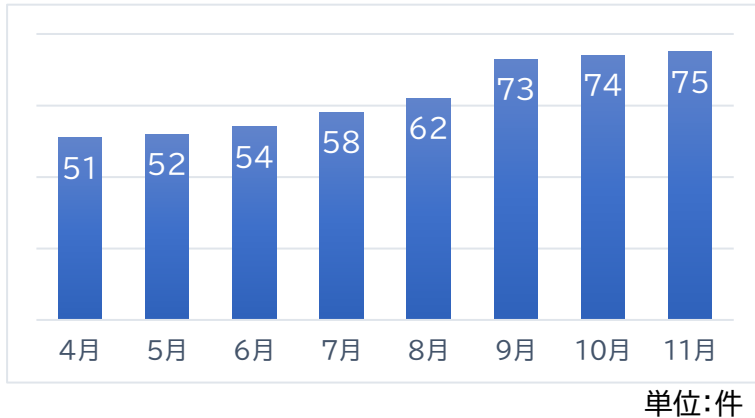
## 【主訴『家庭・虐待』内訳】 n=128



虐待というと殴る蹴るという身体的虐待を思いがちですが、性的虐待、心理的虐待が多く寄せられています。子ども自身が虐待であることを認識できていないことも多く、自分を責めている内容も見受けられます。

※「教育虐待」とは勉強を無理強いされること・教育に関して過度な期待をかけられることをいいます。

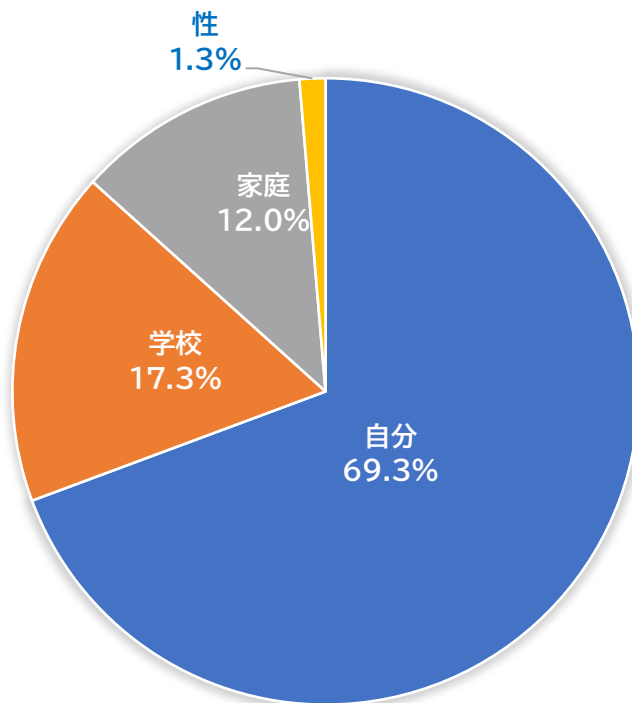
## 【希死念慮 月別推移】(※2022年1月14日現在のデータ)



希死念慮をもつ内容の受信件数です。4月から10月にかけて増加傾向にあり、特に9月、10月が多くなっています。11月は受信体制を強化したキャンペーンの影響が考えられます。

※匿名性を大切にするという観点から、個人を特定できるようなデータは取得していないため、一人の子どもから複数回受信している場合もあります。

## 【11月 希死念慮 内訳】 n=75



希死念慮を持つに至った原因・背景の内訳です。現場で耳を傾けてきた感覚として、他に何かきっかけがあったとしても、そこから自分自身をみつめ、自分に問題があると考えてしまうことが多いように思います。